

破邪論序

7世紀
(唐時代)

魏晋唐小楷⑥

木雞室

伊藤滋

比較図版

— 破邪論序 —



比較図版 — 孔子廟堂碑



唐の法琳法師の仏教を擁護する文に虞世南が自ら序文を書いたと伝えられる。その真蹟が明時代の目録に記されているが、今に伝えられていない。ただ歴代の書法名跡として拓されたものが伝来するばかりである。小楷、一行あたり二十字、三十六行からなる。今回は、明時代の文徵明が制作した王羲之を始めとして、明時代の名跡までを収録した「停雲館法帖」巻一に掲載している原刻拓本を示した。「停雲館法帖」の原刻拓本は、大変少なく一般に流布しているものは、原石が壊れてから再刻されたものであり、原刻本とは稍異なる。「破邪論序」は虞世南の書と伝えられているので、虞世南の名作『孔子廟堂碑』と比較してみた。(比較図版参照) 文字の大きさの違いを考慮に入れても、「孔子廟堂碑」の垢抜けた品の好い、見事に均整のとれた書法とは、大いに異なる。

次号は、褚遂良の作と伝えられる「陰符經」です。

この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。私宛に直接メールで、また編集部宛にお送りいただければ幸いです。

破邪論序

太子中書舍人吳郡虞世南撰并書

若夫神妙無方非籌筭能測至理疑良山繩准所知

寔乃常道無言有崖斯絕安可馮諸天縱窺其窅冥

者乎至如五門六度之源半字一乘之教九流百氏

之目三洞四檢之文苟可以經緯闡其圖詎可以心支

到其境者英猷茂實代有人焉法師俗姓陳穎川人

号司空群之後自梁及陳世傳纓冕爰祖廻伯累業

書道芸術院 平成の群像 (2010)

「北海」



第55回記念書道芸術院出品　“田宮文平の眼”



齋 藤 雨 城

書一

不易流行こそ

・はじめに——「千歳不易・一時流行」
——芭蕉の basic 理念であり、書を求める私は、その根幹として提言する。

確かに院は、草創の精神に「革新」の旗を掲げてスタートを切った。
今や半世紀を超えて、新時代はコラボや、パフォーマンスへ傾きつつある。現代は、混沌とした時代を私は憂つ。中興の祖であった扇舟先生は、「感謝一生」を遺され、私の師翠柳は「愛と寛容と実践力」を。今は院をあげて草創の精神、大先達の偉業を使命として謙虚に実践行動すべき時である。

・現代詩文書——私は五十年唯一筋にこの部門に生命を懸けて来た。いつも「一展一作主義」を守り、王朝の古筆の粹と、法帖からの漢字との現代造形に苦心。私は北限の地に誕生。白銀の光に輝く限りなき大平原の「白の世界」をテーマとして。研究の道程で、黄金率から比重と空間美を求め、音楽からリズム感。究極点は「横帯型の抒情性」に動と静のロマンを求めた。

・殻を破れ——私は戦後、男なら「柔道と書は文武両道」と。今、静かに、世阿弥の「秘すれば花」の心境に。だからこそ、感謝と、謙虚とをもって、日本人の書く書芸術が、日本語の美しさを生命とする一穂らの詩情(リリズム)一杯に、書の険しい道(旅)を続けていきたい。

一面の雪、原始林に白群は輝く——そんな書を。上に掲げた作は「殻」を破れた作——“田宮文平先生の眼”である。

・書は人　書は心という。品格、気品の書を。生涯情熱を失わぬこと。一門一派に偏せず、つまり、独自の書を。これが“現代”であろう。世は数と利と許容。私は余情が響く同じ道を。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

毎日書道会第65回理事会報告

21年度の事業報告、決算報告などのほか任期満了による理事・監事の選任、補欠の評議員選任が行われた。

* 院関係人事 理事 辻元大雲（再任）、総務 浜谷芳仙（再任）
新理事 関口春芳（創玄）
新専務理事 糸賀靖夫（事務局長）
新事務局長・総務 西村修一
新顧問 寺田健一（専務理事）
新総務 室井玄聰
新評議員 石原太流、渡部會山
新参事 寺井朴堂

（新聞社関係除く）

・第28回毎日書道顕彰3氏に

書道芸術部門 三宅相舟・柳碧齋
書道啓蒙部門 田岡正堂

の移行を決議。来年11月をめどに申請準備に取り掛かることに。
移行準備委員会委員長 北村正任、
委員 糸賀靖夫・石飛博光・仲川恭
司・辻元大雲・船本芳雲・飯島春美・
中原茅秋

- ・審査会員・会員特別選考
3年毎に行われる特別選考が実施される。各団体が9月末日までに取りまとめ申請する。本院では62回毎日展審査結果により関係方面に推薦を依頼し、常務理事会にて検討の上申請を行う予定。

<p>連盟会員</p> <p>1日講習 一般 7000円 連盟会員 5000円</p> <p>* 申し込みは所定の申込書（連盟事務所に請求）を郵送またはFAX</p> <p>〒101-0044 千代田区鍛冶町</p>	<p>2—4—8</p> <p>電話 03-5294-1371 FAX 03-5294-1372</p> <p>第64回書道芸術院展運営委員会開催 運営の大綱決まる</p> <p>既にお知らせの通り64回展は東京都美術館改修に伴い全国3会場にて分散開催となりいろいろな制約の中で開催される。6月18日開催の運営委員会にて当番審査員、審査事務委員、実行委員会各部委員の決定など運営の大綱が決まった。</p> <p>・作品寸法等は昨年と同じ。</p> <p>・作品搬入は一般公募から審査会員まで全作品未表装で、11月30日院事務所に搬入。</p> <p>・当番審査員など詳細は8月末日発行の募集規定にて発表される。</p> <p>・展覧会場の募集規定にて発表される。</p> <p>・研究会・表彰式・祝賀会 23年2月5日（土）午後1時30分より 帝国ホテルにて代行授与された。</p>
--	---

辻元大雲平成21年度紹綴褒章受章

<p>書道芸術部門 三宅相舟・柳碧齋 書道啓蒙部門 田岡正堂</p>	<p>・期日 8月6（金）～8日（日） ・会場 赤坂ツインタワー東館 (港区赤坂2-17-22)</p>
--	--

- ・第28回毎日書道顕彰3氏に
- ・作品寸法等は昨年と同じ。
- ・作品搬入は一般公募から審査会員まで全作品未表装で、11月30日院事務所に搬入。
- ・当番審査員など詳細は8月末日発行の募集規定にて発表される。
- ・研究会・表彰式・祝賀会
23年2月5日（土）午後1時30分より 帝国ホテルにて代行授与された。

<p>受講料 3日間 一般1500円</p>	<p>連盟会員</p> <p>1日講習 一般 7000円 連盟会員 5000円</p> <p>* 申し込みは所定の申込書（連盟事務所に請求）を郵送またはFAX</p> <p>〒101-0044 千代田区鍛冶町</p>
-----------------------------------	--



奈良書法大展開催打ち合わせのため6月4日韓国国際書法芸術聯合の権 昌倫理事長他と会見する恩地実行委員長、辻元大雲、大樂華雪、糸賀靖夫各氏ら

現代詩文書（四）

坂本素雪



坂本素雪書

吉田一穂の「鶯」
遠く北方の嵐を聴きつゝ…

品制作する時、特定の人だけにみせるために書いているのではない。不特定読まなければならないのか。作家が作品展の審査で読めるとか読めないとしての話だろうか？少なくとも出品票に読みが書いてある、と言うより何故

書展の審査で読めるとか読めないとまで弾かれる作品がある。誰を対象にしての話だろうか？少なくとも出品票に読みが書いてある、と言うより何故

「かな」をすらすら読めるのか、疑問である。外國の人たちは何を求めているのか、書を芸術とするならば、その根底に「線の美」の追求を無くしては語れない。そこ

に読めるとか読めないとかは、大いなる価値観の違いを感じざるを得ないのである。

21世紀の書

—私の主張—

多数の人々に自分の主張を鑑賞していただきたくて制作しているのではない

か。最近、歐米の美術家たちが書に関しては外心を持つようになつてきただが、では外

国人は読めるのか、我々も「漢詩」「かな」をすらすら読めるのか、疑問である。外國の人たちは何を求めているのか、書を芸術とするならば、その

前衛書（四）

平岡千香子

続けることの大切さ

「徒然草」に、未熟なうちから上手な人の中にもじって、気を強く持ち、一所懸命励む人は、たとえ生まれつきの才能はなくてもただひたすら素直に続けていくこと。とあたと記憶しております。これは、前衛書にもあてはまると思います。が、実際は難しいことです。

5月末発送の毎日展の作品が



平岡千香子書

人になつてしまふ。芸術家は苦心して到達した道でも、出来上がつたらぶち壊してまた新しいものを求め、常に自分自身が新しくなる。日々新たでなければならぬ」と言つてゐる。

なかなか書けなくて、締切日が迫つてくる中で焦りと後悔の念でいっぱい。なぜもっと早くから取りかかるなかつたのか自分を責めても残された時間は僅か。そんな極限状態の中で訪れた滋賀県の佐川美術館で私の眼に飛び込んできた『守・破・離』の三文字と吉左衛門の茶碗。そして彫刻家佐藤忠良のことば「感性を放っておけば鈍ってしまう。学問と同じように努力を積んで獲得するもの」。さらなるは「平和の祈り」と名付けられた平山画伯の展示室。特に魅かれたのはボスニアの子供たちの澄んだ希望に満ちた瞳。躰じゅうに感動をかかえて帰宅後、すぐに一氣呵成に書き上げ提出、サーフ。疲れがドッ。喉もと過ぎれば熱さを忘れての繰り返しは、今回限りに、

書壇受賞に輝く作家展出品

出逢いに感謝

小宮 静舟

(漢字部・審査会員)

原稿依頼をお受けしたのが年の瀬も押し迫った12月30日、正月が過ぎ、折しも「どんど焼き」が近くの小学校で行なわれ、ふつと思いついた事があります。

私の故郷、福岡市の田舎でも昔は「どんど焼き」があり、男性達が田圃の中央に長い竹を大きく束ねて組み立て夕方には火が入り、正月のしめ縄、餅、するめ、さつま芋を焼く等でした。当時小学4年生だった私に、母が言った言葉を思い出しました。「お習字を書いて火にくべ、それが天に昇って行くと字が上達するらしい！」それを聞いた私は、急いで3枚程書いて火の中へ。その時が書への出発点だった様に思います。バチバチと燃え上がる火に息災を願う風習は、今や懐しい思いがします。

今私は、地域の子供達を対象に書道塾を開いております。指導の過程で感じた事ですが、始めは楽しく学んでい

者としての熱意の源にもなっています。先日、高3になる男子生徒が、お爺さんの古稀のお祝に何か書きたいと練習に励んでおりました。そして素敵な掛け軸が出来上がり、お爺さんも大変喜んで「ほう、凄いね。」と褒めてくれたそうです。家庭崩壊が危惧される昨今、私の塾では書を通して家族の絆も深まっている様にも思います。

私自身、中学、高校と書道部に所属しておきましたが、高校の文化祭で、

王羲之の「十七帖」を臨書し出品した事があります。学生時代のこと故に、形臨に終始した作品でしたが、師と出逢い、習字に留まらず書の在り方等のご指導を頂く様にもなり、また、師を通じて書道芸術院との縁に預り、院

展毎日展にも出品する事が出来ました。かねてより、師には「何を表現したいのか、どの様な気持で書いたのか」等、作品に対する姿勢を問われる事が多く、自分の書を見い出すことに苦心している昨今です。

「写真には、写真を撮る人の気持が書にも通じるものがあると感じました。近頃、学校のゆとり教育の見直しが始まっている様ですが、習字の時間が減りつつある中、私達書道塾は、どうあるべきかを考えさせられています。子供達の習字の発表の場として、地域の文化祭や全国学生書道展等に参加しています。特に今年は、60回記念展と言ふこともあり、筆を執る姿も熱気を帯びて来ました。子供達の最大の目標は、上位入賞し、夏休みに東京へ行く事の様です。無限の可能性を秘めた子供達に自信を持たせる事が、未熟乍ら私の役割だと思っています。



小宮 静舟 書



地域文化祭へ出品

師、池内岳城と出逢い、更には、恩地春洋先生に御教示、御指導頂いての今、日々、出逢いに感謝の毎日です。

特別研究部臨書課題

II (全紙以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可

〔解説〕この帖は史実に照らして黄初2年（221年）鍾の71才の書と推定されるが、今伝わるものは王羲之の臨本だといわれている。古来有名なもので真跡はもと晋の王導が持っていて、西晋末の戦乱で江南に逃れると、導はこれを衣帯の内にかくして江を渡り、のちに王羲之に贈ったと伝えられている。

(編集部)

所_レ所_レ。晚_レ公私見_レ異_レ。愛_レ同_二骨肉殊遇厚寵_レ。以_レ至_レ今_レ日_レ再_レ世_レ策_レ名_レ。同_二國_レ休_レ惑_レ。敢_レ不_二自_レ量_レ。竊致_レ愚_レ慮_レ。仍_レ日_レ達_レ晨_レ。坐_レ以_レ待_レ旦_レ。退思_レ鄙_レ淺_レ。聖意所_レ棄_レ。則_レ又_レ割_レ意_レ不_レ敢_レ獻_レ聞_レ。深念_レ天下今爲_二已_レ平_レ。

※落款を必ず
入れる
署名、もし
くは〇〇臨
(押印のみ
も可)

所貽睨公私見異愛同骨肉殊遇厚寵以至
今日再世榮名同國休戚敢不自量竊致愚
慮仍日達晨坐以待旦退思鄙淺聖意所
棄則又割意不敢獻聞深念天下今為已平

(90%縮小)

かな研究部

元永本古今集

(伝・源俊頼) ①

※上記の掲載歌一首
以上を書く
用紙・半紙普通判
(料紙可)※落款を必ず入れる。
署名、もしくは
○○臨(押印のみも可)

特別研究部臨書課題

= (全紙以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可

(86%縮小)

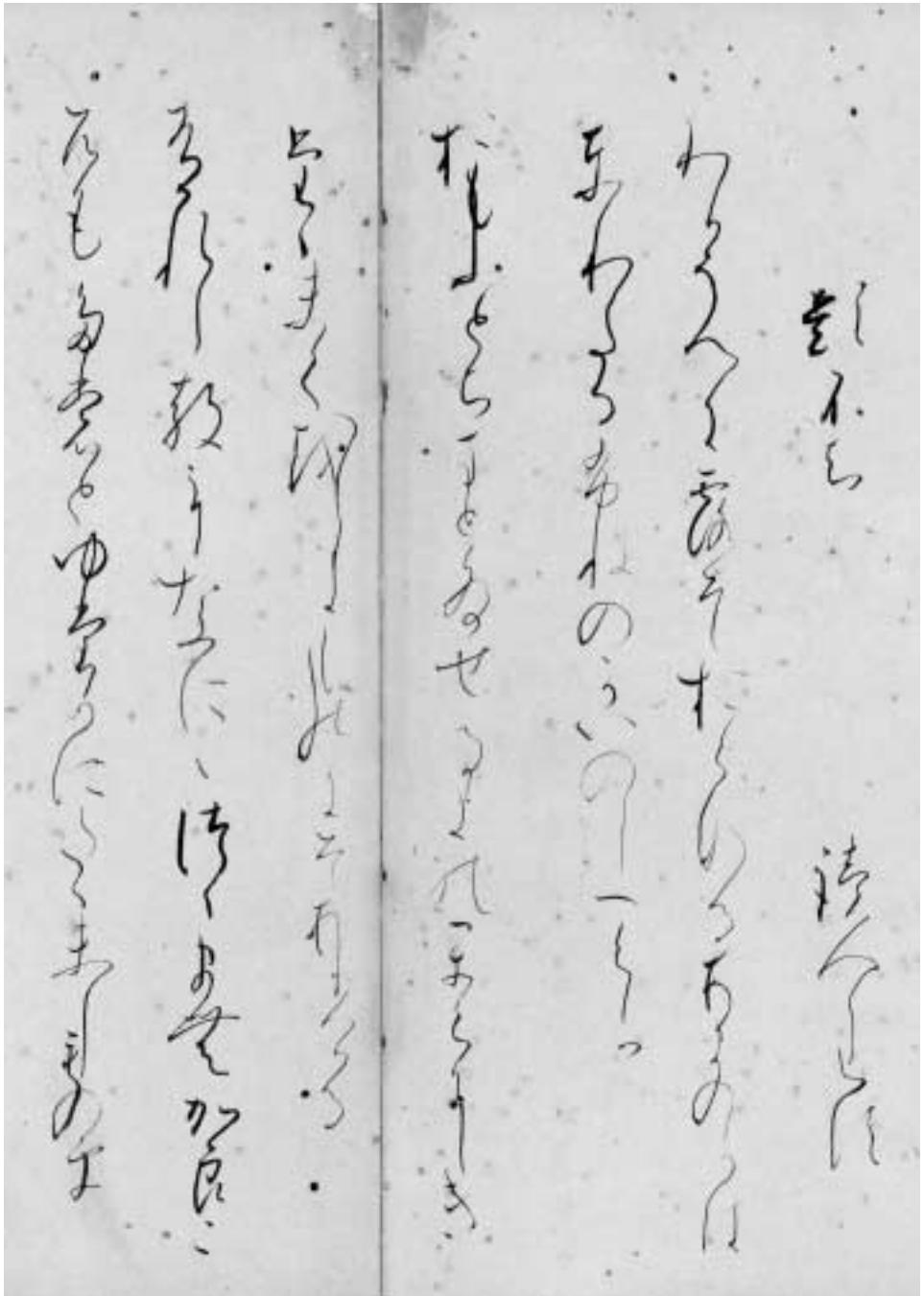
<よみ>

題不_{だいし}知_{しらす}読人_{よみにん}しらず_{しらす}復_{ふく}

ましら

詩_シ

わが_{わが}うへに露_ゆぞおくなるあまの
がは_{がは}とわたるふねのかいのしづくか
おもふどちまとるせるよのから
にしき_{にしき}たゞまくをしきものにぞありけ
る_るうれしさをなに_なつゝまむから
昌毛_{昌毛}多_多美_美也_也可_可多_多末_末毛_毛
ろも_{ろも}たもとゆたかにたゞましも_も
の_のを_を



〈解説〉元永本古今集は上下一冊からなる冊子本で、古今集二十巻を二つに分けて上・下とし、上巻の巻末に「元永三年七月二十四日」と記されているためこの名で呼ばれる。古今集の完本として最古のものである。

装丁は大和綴で、料紙は型文様を摺った和製の唐紙や染紙に、金銀の切箔や砂子を撒いたものなど多彩きわまる。料紙の色の濃淡に応じて運筆にも強弱の変化をつけている。(編集部)

習い方解説 (四)

濱田尚川

無心得良悟
(むしんりょうごをうる)

物事に無関心にして初めて
物的道理を悟ることができる

枯樹膩の字形のおもしろさ、ゆっ
くり筆先を利かした余裕のある運
筆で作品としてまとめてみたい。
筆のあそびを生かすことが大切。

力が入りすぎると硬くなったり重
くなり易いので注意したい。

型にはまらない自由な運筆の中
に緩急の変化、上下運動等のリズ
ムでやわらかく手首を使い楽しむ
気持ちを存分に發揮して五文字の
バランスも考え書いてみましょう。
文字の大小、字間、字形の変化等
工夫し、白黒の調和も考え全体構
成をとって仕上げて下さい。(参考
手本ではそこまでは考えていま
せんので)

無心得良悟 よみ(無心良悟を得る)



習い方解説 (四)

小川弘舟

松涼健人（まつすずひよしとねんじん）
緑色の松は、夏知らずして深く、
人をすこやかにする。

今も、初唐の三大家の一人、
歐陽詢の書を参考にしました。

歐陽詢の書には「九成宮醴泉銘、
皇甫誕碑」などがあり、どれも引
き綺まり、厳しく鋭い楷書で、古
来「楷法の極則」と評され、歐法
と呼ばれてきました。
字形は縦長で背勢（胴が引き締まっ
た形）、起筆は鋭く、転折は角張っ
て、右払いは鋭く払う、はねは小
さめ、筆は硬めの方がよいでしょう。



松涼健人 よみ (まつすずひよしとねんじん)

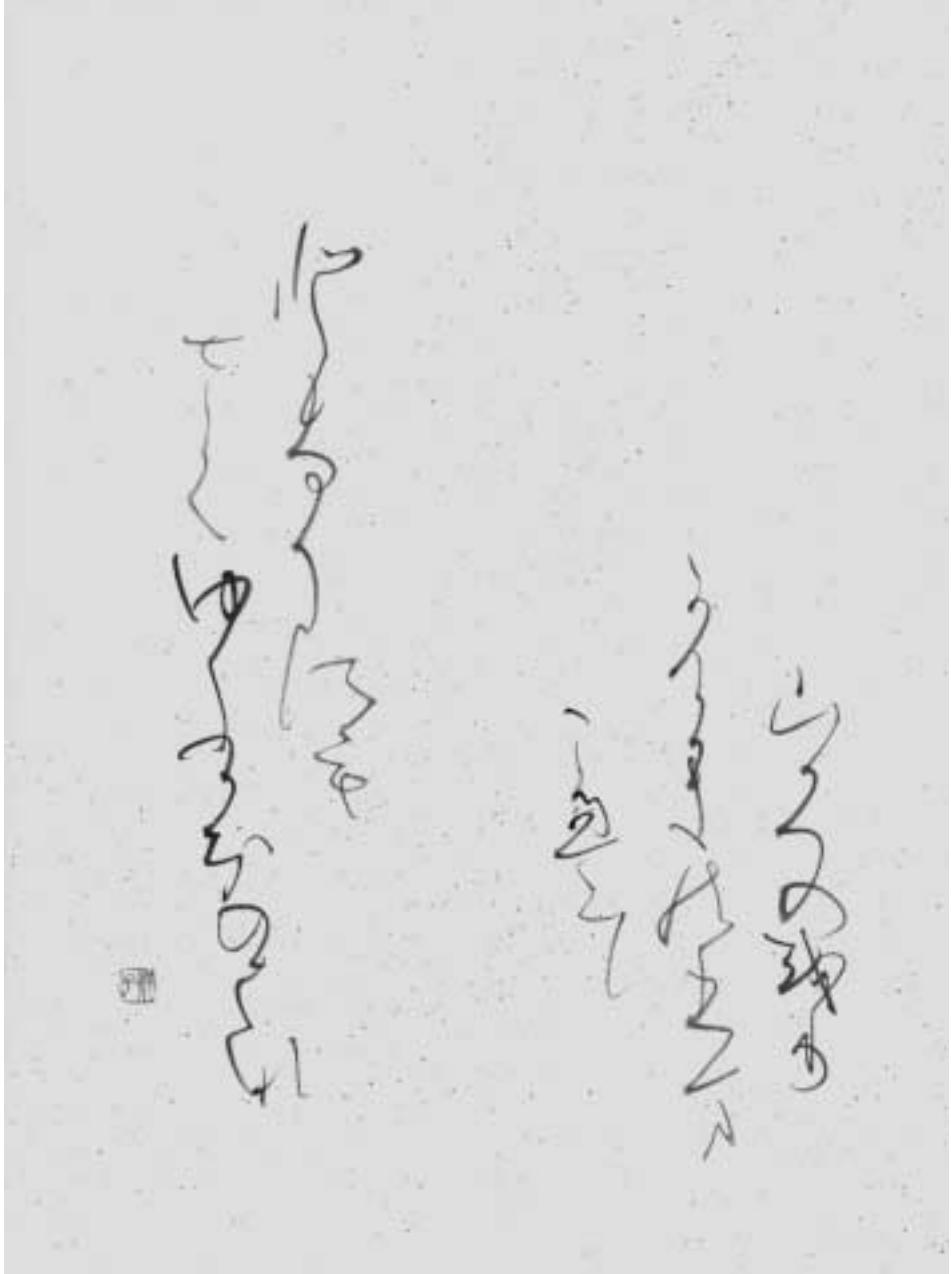
書体＝楷書

習い方解説(四)

下谷洋子

山がつの折かけ垣のひまこえて
となりにもさく夕がほの花

(山家集)



今回の散らし形式も五月号同様
左右分裂式を基にしていますが、
ここでは前半を短い行の集団にし
ました。行頭、行尾はそろわない
ことが前提ですが、位置によつて
かなり趣が変わりますから工夫し
てみましょう。ただ、左右の集団
は同じ塊を並べるのではなく、共鳴
し合うことが全体の統一には必要
になります。このような散らし書
きには、行の動きが不可欠です。

高野切のように整然と真下に降り
る流れでは行がまとまりませんか
ら、行は右側に引きながら動くよ
うに連綿を組みます。連綿線の方
向や長さを見て参考にされて下さ
い。

山がつー山人(やまうど)の家
折かけ垣ーシバや竹などを折り曲
げて作った垣根 ひまーすきま

よみ方 山が(可)つのを(越)り(利)か(可)け(介)が(可)き(支)の(能)ひ(悲)ま(万)こえ(盈)て

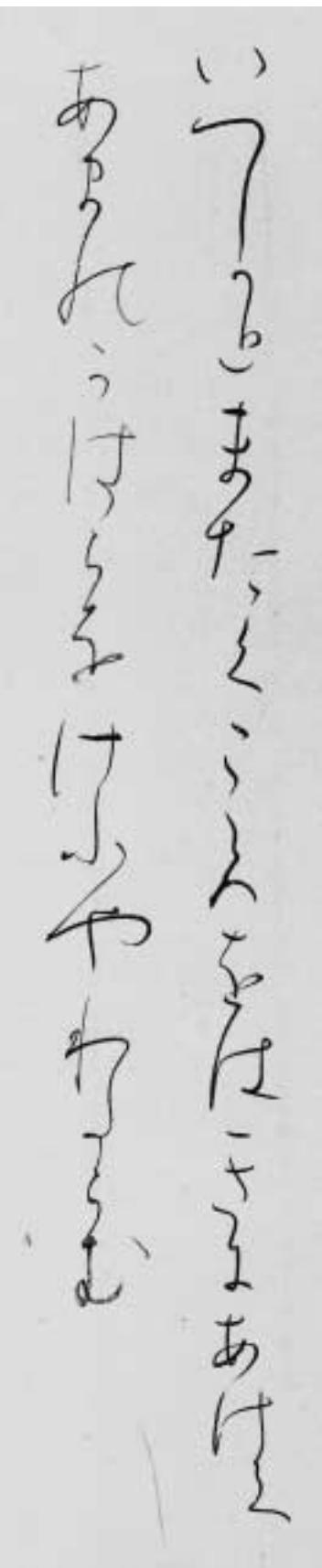
と(登)な(奈)りにも(毛)さく(久)ゆふが(可)ほ(本)のは(者)な(那)

創作

かな規定 秀級以下 【八月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種
(掲載写真縮小93%)



よみ方 いつしか(可)とまたぐ(久)こゝるをはぎに(示)あげて(可)
あまの(能)か(可)はらをけふやわた(多)らむ

習い方解説 (一)

大辻 多希子

かき分けて折ればそこばれけれ
淺茅にまじる撫子の花 (山家集)



よみ方 か(可)き(支)わけ(介)てを(越)れ(連)ば(者)露こそ(所)こぼ(本)れけ(希)れ(礼)

よみ方 か(可)き(支)わけ(介)てを(越)れ(連)ば(者)露こそ(所)こぼ(本)れけ(希)れ(礼)

創作

かな作品に連綿は欠く事が出来ません。連綿をする時、一字毎に切らず、前の字の最終画から次の字の一画位迄書きます。繰り返し書く事により自然な流れが生まれます。各行の墨量の変化も大切です。潤渴により作品の陰影も表現されます。大きく張る漢字もありますが、字体仮名に置き変えてよいでしょう。

*たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【八月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

半田 藤 扇 選書

習い方解説 (四)

半田 藤 扇



月來池上花光淨
（月池上に来り花光淨く）
雨過園林竹露濃
（雨は園林を過ぎて竹露濃なり）

書体＝自由

紙面を大きく見せる書きぶりで
少々荒い線質の表現を試みました。
パンチの利いた潤渴線で迫力が増
せば想いの書風が引き出せると思
います。
今回は、荒々しさの線を表現す
る為、芯に山馬、まわりは羊毛で
仕上げた少々硬めの長峰筆を使用。

漢字条幅規定 秀級以下 【八月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

吹田 紅扇 選書

習い方解説 (四)

吹田 紅扇



詩是無形畫 (詩は是れ形無きの画なり)

(郭熙)

書体＝自由

「詩は造形されない絵画である。
(画は是れ形有るの詩と言つが如
し)」詩も画も根源においては同
じである事を言う。
流れを大事に調和良く書きましょ
う。
太目の羊毛中鋒を使用しました。

習い方解説 (四)

小伏小扇

やうにはその研究や保存に尽力

した人々の篤志も時代とともに

変わるもの、変わるもの奈良

は歴史が息ついて、ます

「ひとつき」特集トト 小扇書

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

漢字とかな交じり文は、漢字とかな
のそれぞれに流れるリズムを一貫させ
ることです。行書は曲線的でやわらか
く、のびのびと引き、つねに線と線と
の連絡の気分を失わぬよう、字形は懐
を広く寛容にします。かなは漢字より
少し小さめに書きますが、ピンと張っ
た筆画で実際より大きく見えるような
運筆をめざします。
また筆圧は個人差のいちじるしいもの
ですが、自分の筆圧が、なめらかな線
を書くのに適しているかどうか、いろ
いろに変えてみて、自分に合った筆圧
を見つけてください。

※落款を入れ忘れないようにしてください
さい。(落款は自分の名前を入れて
ください。)

今月の

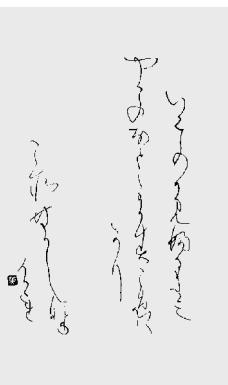
ホーリー作品 各部総評

No. 589

かな部 師範 伊藤 英子

手本を手中に收め、古筆美を思
わせる世界を描ききった表現力は
見事。更に創作へ向って下さい。

◎かな部総評 庄倒的に手本通り
の構成で高レベルでした。意の誤
字多出残念。曖昧解消の努力と創
作へ踏み出す勇気を！（明子評）



漢字条幅部 師範 多田 桂彩
柔らかな珍毫筆を使用し、軽快
な運筆のリズムが弾力ある筆致を
醸し、明るく爽やかな作。

◎漢字条幅部総評 上級者は書体
書風の変化や工夫された作多く見
られたが線質の甘い弱々しいもの
目立った。下級も同様。（大雲評）

かな条幅部 二段 真下美佐代
彈力のある線で伸びやかに、跳
躍するようなリズムが印象的です。
形や動きを掌中にての作に瞠目。
◎かな条幅部総評 惜しはをとな
ります。作品としては巧みでもか
な遣いの違いは許されませんので
是非気をつけましょう。（洋子評）



前衛書部 特選 小林 美恵

巧みな線の動きと滲みが融合し、
淡墨ながら重厚さと躍动感が出た
表現豊かな作である。

◎前衛書部総評 明るい表現の作
が多く、感性が豊かだ。落款の位
置・大きさに一考。（蓮紅評）



現代詩文書部 特選 加藤 紫翠

潤渴の変化が絶妙で、特に渴筆
部分の清涼感は作品に明るさと広
がりを感じるすばらしい作となる。
◎現代詩文書部総評 リズムと統
一感が大切。その為には言葉を大
切に書作したい。（石雲評）



（和楓評）

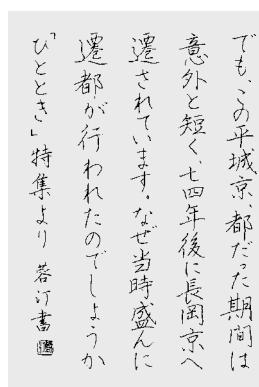
ペン字部 師範 永瀬 蓮汀
暢やかさの中に、終筆まで行き
届いた氣脈、線質の確かさが明る
く、安定感を醸し出した見事な作。
◎ペン字部総評 秀作が多く今後
が楽しみ。同じ文字が左右に並ぶ
場合にはさらに工夫と研究を望む。

（和楓評）

暢やかさの中に、終筆まで行き
届いた氣脈、線質の確かさが明る
く、安定感を醸し出した見事な作。
◎ペン字部総評 秀作が多く今後
が楽しみ。同じ文字が左右に並ぶ
場合にはさらに工夫と研究を望む。



漢字部 師範 佐々木青霞
しつとりと線を沈めて潤いがあ
る静かなたたずまいがよい。濃墨
をうまく使って内含性がある。
◎漢字部総評 隸書に魅力的な作
品が多かった。自分の呼吸でまと
まるまで練習量がほしいと思う。
書き込み不足だろうか。（春洋評）



今月の

特別研究部優秀作品(特選)

角田悠香書



60×180cm

- ◆全体を使って筆を運ぶ筆が先に行くのが自分が先か、書いている時は、気がつかないが考えて見て。(倫子評)
- ◆白の配分が心憎い作品。大胆さと繊細さを潤滑で巧く操り、ゆったりとした大気が流れるようです。(洋子評)
- ◆左辺の重量感ある線質と右辺の渴筆のコントラストが紙面に動きを与えている。余裕ある広がりがほしい。(大雲評)

(大雲評)

◆左の墨の固まりから右の白への流れはよいが、筆が小さいせいか渴筆に変化がないように感じた。(蒼玄評)

「午後の風景」

前衛書
(四谷)
角田 悠香

「午後の風景」

前衛書
(四谷)
角田 悠香

臨書
(大雲)
長島 優雨
「北海王元詳造像記」

◆堂々とした臨書作だが意臨に近いでしょか。高い技術があるのでも、より細やかに的確な表現を期待。(洋子評)

◆形臨するか意臨か、難しい所、線の表現も入筆の力強さそれを切らす。ねばり強さを表現して安定の作だがやや切れ味が鈍い。(大雲評)

(大雲評)

◆初の臨書研究への応募挑戦の姿勢を買う。ねばり強さを表現して安定の作だがやや切れ味が鈍い。(大雲評)

◆北海王を感覺的にとらえて品よくまとめていく。臨書としてはもうと細部に気をくばることも必要だろう。(蒼玄評)

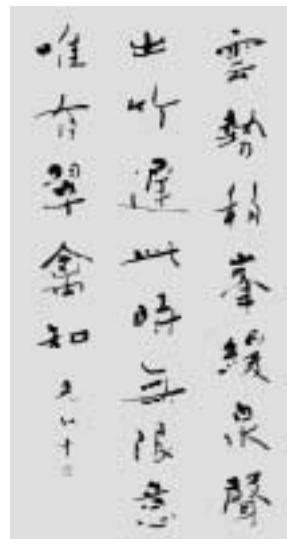
(蒼玄評)

像一區以宣於此至勒母子平安造
長島 優雨 臨

137×35cm

漢字 (大雲)

大隅晃弘
「泉聲」



136×70cm

◆筆の運びにリズムを感じる。始筆の墨の含み方が自然なのか考えて表現したのか上手に使い分けてる。(倫子評)

◆飘々とした味ある作。やや老成した感がある。もう少し艶やかな線があれば更に冴えが出ると思う。(洋子評)

◆一瞬何も考えずに書いているようだ見えるが一字一字を見ると細字に神経がゆき届いた造形だ。(蒼玄評)

◆飘々と見せる所が卓越しています。(大雲評)

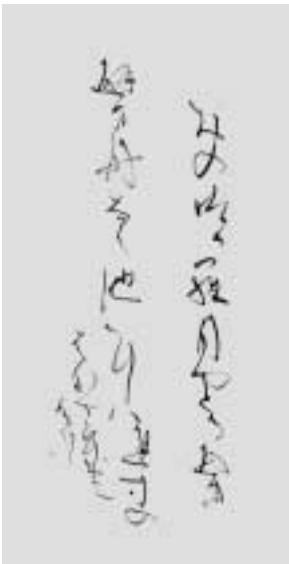
大隅晃弘書

雲動林峯緩泉聲
唯音翠余知ミイナ



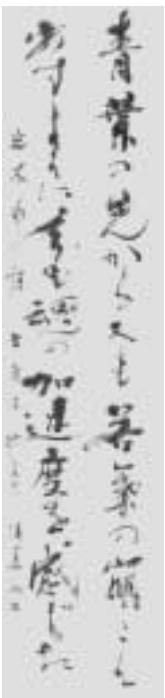
(書泉)

田 村 玲 子 「おのづから」



137×70cm

田村玲子書



174×42cm

桐谷優華書



(蓮紅)

「祈り」
一條紅蕭



182×60cm

◆書いた字が紙から浮き出すような感じがするのは線の強さが作用してか、筆と一緒に動くからか。
（倫子評）

◆無理のない動きでリズムを貫通し、構成も自然でよい。
◆切れのよい線で構成も得ていて、中心の渾沌から後半にかけての流れは自然で佳作である。 （蒼玄評）
最後の短い行で紙面を締め、艶も出て来た。 （洋子評）

◆小気味よいリズムが紙面に爽やかさを醸し出し、明快な作。左右の余白がやや広く感じられる点一工夫を。(大雪評)

◆ 淡々と書き進めているが多字数では効果的だが二行構成では山場がほしい気がする。墨色も一考を。(蒼玄評)

◆ 自然体で読み易い点では好感が持てるが、ドラマが欲しい気もします。墨色、潤渴なども一考を。(洋子評)

◆ 手なれた形の作品なのかあぶなげなく見られる。欲をいうと滲みと字の大小に留意すると変わるもの。(倫子評)

◆ あまり奇を衒わず、自然な流れを表現して好感がもてる。やや平凡に見えるのは山場が不足かも。(大雲評)

現代詩文書
(うるいど) 桐谷優華

桐谷優華

特選候補者

117

總出品點數

卷之九

◆このような作品が生まれる時の心境を伺ってみたいのです。生命の糸の永遠性に想いが巡りました。

◆ 独特の潤みが実線の動きに広がりを与え、破墨の効果と調和する。落款の位置は一考を要す。

◆細線が交わる造形が響を出し、じみがそれをやさしく包む。縦の構成だが横の方があらゆとりがあるか。

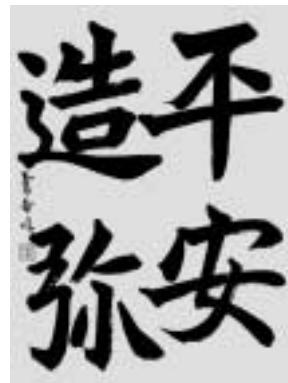
(蒼玄評)

創作の部(71点)
漢—11点

創作の部(71点)									
漢書の部(46点)					臨書の部(22点)				
特選候補者					創作の部				
漢 か 四 谷	漢 うる 枝 及 川	漢 前 青 蓮	漢 白 珠	漢 游 水	漢 現 和	漢 書 泉	漢 書 泉	漢 墨 宣	漢 墨 宣
木 白 鈴 木 白 鶯	橋 由 紀	前 伊 藤	前 有 津	前 荒 川	和 石 崎	京 田 子	京 高 橋	鎬 木 梅 道	京 小 汀
117 点	39 点	22 点	13 点	24 点	1 点	1 点	1 点	1 点	1 点

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



高橋蒼香

漢字研究部 特選 高橋 蒼香
用筆もよく、伸びやかに書き、この古典の
結体上の特色をも捉えた秀作です。

穢やかにも見える線の中に、筋の通った強
さを感じます。これは古典に習熟し、正しい
筆使いにより臨書した結果だと思います。

◎漢字研究部 総評

数多い作品の中には、写真版に取り上げ
い作品も多く見うけられました。しかし残念



陽華紅白玲恒
子香霞扇菜悦

初 満 き由惠綾
江 子香子子

ま花清雲治緑
き果耀卿美豊

井梢安魯準由梨香
泉翠子春子香

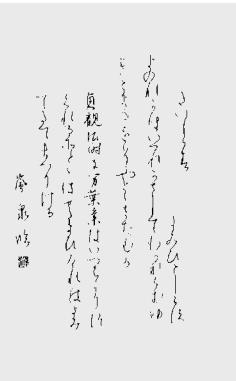
なことに、用筆がこの古典と掛け離れた臨書
も少なくありませんでした。特に、横画、縦
画の起筆と終筆、他に転折の筆法がこの時代
の用筆でない隨、唐時代の筆法に依るものがあ
る点がありました。
それぞれの古典の書かれた時代背景や、造
像記が書かれた目的などを把握して臨書する
ことも大切であると考えます。

なことに、用筆がこの古典と掛け離れた臨書
も少なくありませんでした。特に、横画、縦
画の起筆と終筆、他に転折の筆法がこの時代
の用筆でない隨、唐時代の筆法に依るものがあ
る点がありました。
それぞれの古典の書かれた時代背景や、造
像記が書かれた目的などを把握して臨書する
ことも大切であると考えます。

かな研究部
(高野切第三種)

選評 黒川 江偉子

今月のホープ作品



新谷嵐泉

◎ かな研究部総評
かな文字の原点ともいえる高野切三種、さすがに、
よい作品が多く見られ納得致しました。

線、形、流れ、三種の端正な書風を、明快に伸び
やかに書かれ、晴れやかな思いで拝見しました。
見事な秀作です。

かな研究部成績表

芳照佑 草敏晴 優良美 吉皓彩
枝芳子 秋子子 子子泉 惠泉祥

如「大千大こ洞秀」 長A玉澄椿泉秀石豊A道英有書京硯 春蘭A竜湘石こ卯
月「阪葉阪だ書秀」 月I松春翠会明習田I峰秋泉橋水 汀鼎I泉南習だ月
金目小大池五安作 杉伊塙字小田岩松小藤鈴佐武岡吉宮三藤川生後内吉新
子賀野機十藤鳳川寺た由
蘆窓萩草秋萩佳楊城秋光江溪栄風
蓮童五山 正菁玉泉一秀五玉秀江卯秀竜彩声千湘正N澄竜湘正英幕彩竹大
紅泉葉王 華青松会草木葉水龍月水泉 香葉南華H春泉南華峰張 扇雲
遊森前星林林樺永中富都遠寺鶴津高泉開鈴波佐坂坂後小木吉北岸河河
佐田田島野 本田村澤丸山澤田田橋水口木谷藤藤本藤嶋原瀬村田岡合
登美千 理み志 美
啓子 紅龍陸代佐惠雙紅時一恵ど希悟恵幸初龍秋香愛詠麻み翠知路輝彩惠東星和
雅博子枝子鶴霞子琴子子子江宝麗楓華子美よ香子子雨舟子扇敬

竜松芳高 青清明紅英千紗も玄江前遊雲佑五幕紅誠願う正梓大東筑詢帝う生四広梓廣東艸千宮N広誉秀こ英紗澄千Hう生大
泉村蘭陵 入 峰漢月苑峰葉玄く翠見橋雲溪葉張瑤和綠る華江阪小桜扇塚大谷島江島峰玄葉崎H島田明だ峰玄葉
浅阿青會 川久木木木
み澤蘭勇江華雪介 千由 由
明鶴紀真龍笑珠藤湖和勝彩游梢正賢香翠起揚幸明史さ智香等順春秀南茱紫 柴雲辰真富理喜星岳如楠梨良廣
子江蘭峰華風伴舟子美峰溪翠子雲舟光子流子敏江ゑ子蘭遊子翠子汀仙仙動風卿夫澄子給代祥峰風麗霞佑生子
た春竜東八艸う大樹京翠蒼高戸清奥調東大華若調四生蓮 大秀英大安詢椿藤筑上清こ東千高桂石正筑大八生岩大千椿も京
か汀泉小街玄る阪原橋吟陽崎出月田布光雲祥葉布谷大紅 版水峰雲波扇翠 桜泉月だ總都真月習華桜雲街大沼阪葉翠く橋
猿佐櫻佐齊齋後近近込小小小小小熊工木木北菊河金門片梶小小大岡大大大江梅薄岩井犬伊伊磯石石生飯安新東
渡々田久藤貢藤藤藤山峰路林林暮柳野藤村原又池合岡脇野川野田八西沢田原田浦上野ト藤藤貝渡橋崎駒田藤井
木間 美美美
董淳龍節桂絹裕喜淑松閑蕙加千嘉純雅祥竹谷山翠尚春玉智欣信美絃久江十芳一淑茂虹春美都玉道英悦清翠さ正萩光代藤花
右子貞子美子春窓子子子江風子峰葉涼房蕙子峠蓮子美子代苑美詢美江夫祥綠子子香石子子耀徑子花影子雪子

芳大竹白秀玉大右春梵澄五幕千大澄高大京稻高秀銘土千有稿詢京土正艸千大森大泉翠玉う戸竜幸紅秀東紅英正大八昆た
遷蘭阪美鶯峰川雲田汀 春葉張葉阪春陵雲橋毛陵水子氣葉翠扇橋氣華玄葉阪地雲会柳松の出泉扇瑠水岳瑠峰華阪雲陽か
外229渡六横山柳谷森村富三宮真松松増前堀細藤福深平浜橋野西西永中戸富東積辻近田橋竹高高砂砂鉛神七寺猿
名邊波山崎堀知下田野宅内庭島重佐田花切川村川島澤山本本村村澤井澤村田平田 池中澤橋木川木木保野條倉渡
百和シ
信漢香政美祥萩津昇満白幸ケ翠翠白華麗幸魯貴寿歌佳優彩日陽桂瓊宏雅博萩絹雅洋柳耶由和雅沙合洋琉智多佳萩裕和冬
エ舟織翠子景堂枝楊平ミ舟景鉛秀子雲春子三子月子華エ和詢苑美枝子舟影子雲子芳衣紀子泉風子子華広美子碧美子